

くすっ子



鴻巣市立屈巢小学校
学校だより
令和4年1月31日
No. 19

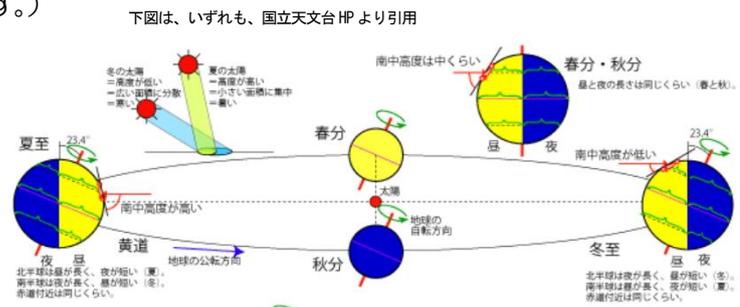
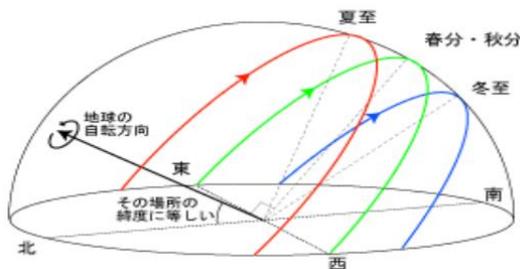
《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

節分・立春を間近に控えて ～常識（定説）を疑う探究心～

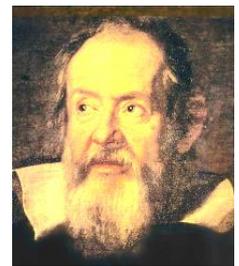
校長 諏訪 けん 健

寒い日が続いています。しかしながら体に受ける陽の光の勢いが、1か月前とは変わってきていることを感じます。これは、地球の地軸が傾いているために、日の出から日の入りまでの太陽の通り道（黄道）が、日々変わっているために起きる現象です。今は、6月の夏至の日に向けて太陽の通り道が、どんどん高くなります。それと同時に、日の出の場所が徐々に北にずれて、時刻も早くなります。日の入りの場所も徐々に北にずれて、時刻も遅くなります。（下左図参照）

冒頭の下線部のことは、地球の地軸が傾いているだけではなく、地球が太陽の周りを1年かけて周っている（公転）から起きる現象です。この公転を発見したのが、「それでも地球は動いている（回っている）」と言ったとされるガリレオ・ガリレイです。（諸説あるようです。）



ガリレオは、約400年前に多くの人が信じていた天動説（地球はその場で回転しているだけで、太陽が地球の周りを回っている説）と全く反対の考えの地動説（地球は、自ら回転（自転）しながら、太陽の周りを回っている）を天体観測等による根拠をもとに唱えました。（はじめに地動説を唱えたコペルニクスの考えを引き継いだ形で）しかしながら、ガリレオの考えは認められず、罪を問われ裁判にまでかけられてしまいました。判決は、有罪。ガリレオは死後も有罪の汚名をきせられたままでした。捕らえられた生活の中で、書き残した言葉が、「それでも地球は動いている」だったと言われています。（諸説あるようですが。）その後、ケプラーやニュートンなどの科学者が、地動説の正しさを裏付ける新たな法則を発見することで、地動説が正しいと人々に認識されていきます。



パブリックドメイン確認済

ガリレオの主な功績は、次のとおりです。①落下の法則 ②振り子の等時性 ③慣性の法則 ④太陽の黒点の発見 ⑤月のクレーターの発見 ⑥木星の衛星（月と同じもの）の発見 ⑦高性能の望遠鏡の製作 ⑧天の川の解明（太陽と同じような星＝恒星が宇宙にたくさんあることを発見）

以前、本校職員の大澤理科支援員が、自前の望遠鏡を秋の月食の際に用意し、他の職員に望遠鏡をのぞかせる体験を企画してくれました。その際、木星の4つの衛星（＝ガリレオ衛星）を私は、初めて見て大変感激しました。その輝きは、太陽の光を反射して遠く地球にまで届いている光（太陽から木星の距離＋木星から地球の距離を移動した光）です。それは、ガリレオをはじめ、常識（定説）を疑い真実を証明しようと尽力した400年前の科学者達の熱意が、現代に生きる私たちの在り方を問いかけているかのような光でした。

コロナの感染収束の兆しがなく、閉塞感が再び増している昨今ですが、希望の星は、必ずあります。常識（定説）を疑う眼も兼ね備えながら、まだまだ続くコロナ禍ですが、みなで団結・連帯して乗り越えていきましょう。